



地域学校協働活動と
キャリア教育の広報紙

てなむ

学校向け

- ◆ こばやしスクールサポートボランティアセンター 【小林市社会教育課(中央公民館)】 Tel.22-7912
- ◆ 小林市キャリア教育支援センター 【小林商工会議所(TENAMUビル)】 Tel.23-4121

小学3年生と5年生、中学3年生は「小林市手話言語条例」に基づき、手話の学習をしています。教えて下さるのは「木の実会」(旧市内・須木地区)と「野尻手話サークル」(野尻地区)の皆さん。

子どもたちは、手話や指文字を学ぶとともに、聞こえない人の日常生活を知り、困っていることを理解して、自分たちができることを考えます。活動に接する度に、手話の学習は「ふれあいと思いやり」の学習だと思っています。



【細野小 5年生】自己紹介



【須木中 3年生】補聴器の体験・自己紹介



【東方小 5年生】口話(口の動きで伝達)・ジェスチャー



【野尻小 3年生】手話歌「パプリカ」



【細野小 3年生】指文字・自己紹介

◆ ここに、手話が言語であるとの認識に基づき、手話の理解と広がりをもって、全ての市民が互いに助け合いながら安心して暮らすことができる小林市を目指し、この条例を制定します。(小林手話言語条例より)

永久津小 社会科見学

3年生



7名の3年生が開店前のコープ小林店を訪問。店長の中武さんの案内で売り場とバックヤードを見て回りました。パンを作るところや届いたばかりの野菜、宮崎牛の大きな塊など、子どもたちは、目にすることがない準備の様子に興味津々でした。

日向灘のカツオなど、魚の名前と産地も知り、たくさん質問をして熱心に学んでいました。

紙屋中 陶芸教室

1年生



指導は園田さん(園田陶苑)

地域の陶芸家、園田さんによる陶芸教室は、1年生を対象に10年以上続いています。

今回の授業では、前の時間に制作して素焼きした自分の作品と、園田さんからいただいたマグカップに、丁寧に絵や文字を入れていきました。この後、窯で焼き、完成した作品は文化発表会で披露しました。

裏に続きます。

収穫の秋 いろいろ

この秋も、地域や学校のさまざまな特色を感じながら、いもほりや稲刈りを取材しました。



【紙屋小1・2年生】たくさんの大人に手伝ってもらいました。



【栗須小全校児童】1・6年生、2・5年生がペアになって活動しました。



【西小林小5・6年生】5年生の米作りを、毎年、6年生が手伝います。



【細野小5年生】コンバインの仕組みと昔の道具の説明がありました。

【三松小5年生】2クラスが交替で、刈取りと脱穀をしました。



須木小・中 土俵の縄編み

永田館



小学校3年生以上と中学生が参加。ほぜ祭りで行う「ほぜっ子相撲」の土俵（直径4.5m）の縄をおよそ8年ぶりに作りました。

ここ数年は体育館でマットを使って相撲を取っていましたが、外でやりたいという声もあり、縄編みを実施。3人がそれぞれ1束を持ち、合図でくると1回転。太い縄が少しずつ編まれていきました。地域の方も昔のやり方を思い出しながら子どもたちに教え、賑やかな作業になりました。

こんにちは！ 小林市キャリア教育支援センターです



キャリア教育トークセッション 第8弾



ゲストスピーカーは山口能敬（よしたか）さん。元は熊本県の公立高校教諭(商業)。東京 CPA 会計学院熊本校の開設にあたり、当校に進学した教え子と働きたいとの思いから転職を決意。最年少税理士試験合格者を始め、数多くの職業会計人を輩出しています。

「これからの職業に必要な技能として語学やパソコンが話題になりますが、税理士や公認会計士など、会計のできる人が求められています。試験は難しいですが学歴は関係ありません」というお話から始まり、教師を目指すきっかけとなった高鍋東小の先生との出会いや、専門学校での卒業生との出会い、専門学校の卒業生との出会い、専門学校の卒業生との出会いなどのお話をしてくださりました。

「自分を応援してくれる人がいるのは幸せ」とか「目標を持った瞬間に困難はやって来ます。それをプラス思考で、ワクワクして迎えられたら…」など、心に残る言葉をたくさんいただきました。



地域学校協働活動と
キャリア教育の広報紙

てなむ

学校向け

- ◆ こばやしスクールサポートボランティアセンター 【小林市社会教育課(中央公民館)】 Tel.22-7912
- ◆ 小林市キャリア教育支援センター 【小林商工会議所(TENAMUビル)】 Tel.23-4121



【真方一区兵児踊り】保存会と小林小学校児童



【東方輪太鼓踊り】東方中



【紙屋城攻め踊り】紙屋小

11月12日(日)、小林市郷土芸能フェスティバルが、市文化会館で6年ぶりに開催されました。小中学生が出演した演目もあり、会場からは大きな拍手が送られていました。

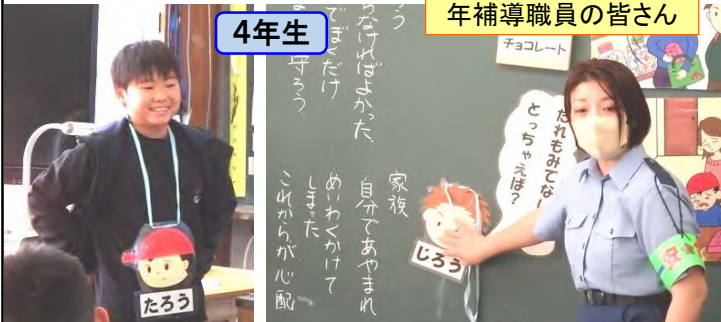
野尻町出身の仙若さん(曲芸師：東京在住)と息子の若遙さん(中学2年生)による江戸太神楽も披露されました。その他の演目は… ◆ 岩戸神楽(堤) ◆ 剣舞一の谷(須木) ◆ 東麓新地馬場棒踊り(野尻) ◆ 永田町馬踊り ◆ 細野一区輪太鼓踊り ◆ 萩川神楽(高原町:ゲスト出演)

後継者不足で継承が難しい芸能のことや、練習時間の確保、スポーツ少年団(部活)との両立に苦労しているという話も聞きます。

でも、これまで訪問した学校で、「郷土芸能をずっと守っていきたいです」と元気に話す、たくさんのお子ともたちとも出会いました。

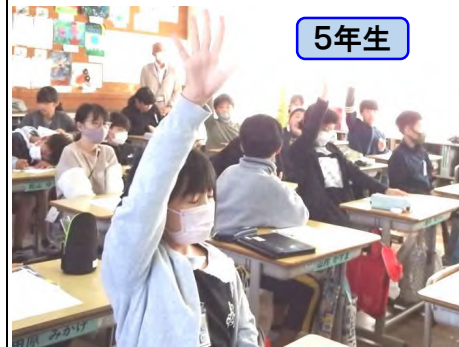
三松小 非行防止教室

【講師】 都城警察署少年サポートセンター少年補導職員の皆さん



4年生

3クラスでそれぞれ実施。万引きで警察に呼ばれたたろう君と家族の物語を通して、万引きの前と後の気持ちの変化や親の思いについて考えました。たろう君になりきって誘いを断る寸劇もあり、子どもたちは、自分の将来や周囲の人々への影響などを考えながら演じていました。



5年生

あなたならどのような返信をしますか？

〇〇が悪口言ってたよ！

あいつサイテーじゃない？

コミュニケーションアプリでトラブルをふせぐポイント

相手の気持ちやじょうきょうを想像する

人のうわさ話や悪口を言わない・信じない・伝えない

人に見られてこまる写真は送らない

大事なことは直接話す！

5年生2クラスは、ネットのトラブルを例に、インターネットとのかかわり方について学びました。「メールの返信が届かない」とか「自分への悪口が書き込まれていた」場合に、どう前向きに考え対処するかを考え、発表しました。

幸ヶ丘小 フラワーアレンジメント体験



県技能士会連合会の協力で実施。全校児童と家族、約25名が、フラワー装飾技能士(生花店や生産者の皆さん)に教えてもらいながら、スプレーカーネーションやガーベラ、千日紅の寄せ植えを楽しみました。

色のバランスを考えて花を選ぶことから始めたので、個性豊かな作品がたくさん出来上がり、参加者は互いの寄せ植えに見入っていました。

南小 昔の遊びフェスティバル

1年生



たんとぼ

あやとり

区長さんを始め、地域の方26名と40名の1年生が、11種類の遊びを通して交流。一人が4つの場所を回り、やり方を教わりながらいろいろな遊びに挑戦していました。

感想の時間には、「できるようになって、どんどん楽しくなりました」とか、「初めてでしたが、やってみたら面白かったです」など、子どもたちの満足した声がたくさん聞かれました。

裏に続きます。

西小林小 おもちゃまつり

2年生



幼保小交流の一環で「おもちゃまつり」を開催しました。西小林保育園、かおる幼稚園から合計20名の園児が来校。さまざまな手作りのおもちゃで遊びながら楽しく交流しました。

活動中は小学生も園児も笑顔でいっぱい。別れ際には、名残惜しそうに何度も振り返り「バイバイ！」と呼びかけ合っていました。



紙屋小 広沢ダム見学

4年生



紙屋地区の漆野原開田事業に尽力した信時金之助翁について、漆野原土地改良区事務所で元理事長の有留さんから話を聞き、その後、紙屋の北にある漆野原調整池と岩前頭首工(取水口)、広沢ダムを見学しました。

広沢ダムは水源としての農業用水ダム。宮崎市のイオン付近にも水を供給しているそうです。管理事務所の皆さんからダムの役割についての説明を聞き、点検用トンネルの入り口付近を見学しました。

東方小 音楽発表会

4・5年生



西諸音楽大会に出演する4・5年生の発表会。他学年とこすもす支援学校小学部の児童を前に、合唱「Believe」と合奏「ひこうき雲」を披露しました。

演奏後、両校の児童からは、「とても楽しかったです」とか「歌も演奏も上手でした。本番でもがんばってください」などの感想とエールが送られました。本番でも、心に残る演奏を聴かせてくれたことでしょう。

東方中 パラスポーツ交流会



コロナ禍で中断していた交流会を久しぶりに実施。東方中生34名、支援学校中学部11名の生徒が9つのチームを作り、ボッチャとフライングディスクで交流を深めました。ボッチャでは、東方中生はひじから下を使って投球。支援学校生の補佐も務めました。フライングディスクでは審判も交替で行い、ディスクがリングを通る度に元気づく旗を挙げていました。

アントレプレナーシップ教育って？



学校教育課・社会教育課(KSSVC)・キャリア教育支援センターによる定例会が月に1度開かれています。先月の会では、支援センターの佐土原さんから「アントレプレナーシップ教育」に関する話がありました。聞けば、県内での認知度は今一歩で、実践している学校も少ないとのこと。

アントレプレナーシップは「起業家精神」とも訳され、文部科学省では、「急激な社会環境の変化を受容し、新たな価値を生み出していく精神」と捉え、「社会の課題解決に挑戦し、他者との協働により解決策を探求するための知識・能力・態度を身に付ける教育」と位置付けています。その為、「キャリア教育」によって育成される「人間関係形成・社会形成能力」、「自己理解・自己管理能力」、「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」に符合する内容も多く含まれています。

キャリア教育支援センターでは、アントレプレナーシップ教育に関する講師(児童生徒・教職員向け)の紹介もしています。



先日、市内のホームセンターで、職場体験学習中の中学生に出会いました。一人は商品棚の整理、もう一人はレジを担当。熱心な仕事ぶりに、レジの方も「大きな戦力になっています」と笑顔で話していました。



職場体験学習の発表会を参観日に行ったり、活動を振り返る日を1日設け、翌日の活動に生かしている学校もあります。

(写真は昨年度の須木中)



地域学校協働活動と
キャリア教育の広報紙

てなむ

学校向け

- ◆ こばやしスクールサポートボランティアセンター 【小林市社会教育課(中央公民館)】 Tel.22-7912
- ◆ 小林市キャリア教育支援センター 【小林商工会議所(TENAMUビル)】 Tel.23-4121

「小林のよさや特色、課題について知り、これからの小林市の未来を考える」小林未来予想図。中学3年生、こすもす科の授業です。

毎年、さまざまな発表に接する度に、中学生の豊かな発想に感心しつつ、実現できたら…と願うものも少なくありません。高校生が探究活動の中で地域おこしに関わっている事例もあります。中学生のアイデアを形にする取組が少しずつ生まれてくるといいなと思っています。



小林中

4学級の24グループが、他の学級で相互に発表しました。市役所職員(地方創生課)や高校の先生方(探究活動担当)も参観。感想やアドバイスをいただきました。



野尻中

寸劇を取り入れた発表で笑いが起きる場面もありました。発表後は、テーマに関連する市役所各課の職員と懇談。市の施策についての説明も聞きました。

須木小 放流体験学習

4年生



須木漁協(西道組合長)から提供された30センチほどのウナギ、約30匹を河川プールに放流しました。初めに、須木支所の片地さんによる「川の話」。須木の川がきれいなのはなぜ?どんな魚がいる?など、子どもたちに問いかけながら自然の豊かさについて話をしてくださりました。その後は放流体験。うなぎはぬるぬるしてつかむのに苦労しましたが、「大きくなってね」と声を掛けながら、一匹一匹川へ放しました。

小林中 災害時引渡し訓練



小林中では、以前、大雨で迎えに来た保護者の車で渋滞が起きたことを教訓に、人と車の動線や誘導の方法などを見直しました。学級と出席番号が書かれた用紙をフロントに置いた車が、誘導に従って3か所の入り口から校内に。学級で待機していた生徒は、無線やハンドマイクで呼ばれた後、次々に保護者の車に乗り込んでいました。

「今後、噴火など、さまざまな状況を想定しての訓練を行っていきたいです」と、谷口校長先生。手順の確認に加えて、参加者の防災意識を高める良い機会になりました。

栗須小 みかんやまスマイルフェスタ



10年前から続く、学校と地域の協働活動です。

午前中は保護者と一緒の餅つき大会。全校児童で収穫したもち米を使い、お餅に丸めてみんなで楽しく食べました。5年生は、「栗須っこ米」のブランドでの販売も行い、保護者や地域の方が次々と買い求めていました。

午後からの防災訓練には、学校と栗須地区の様々な団体が参加して、災害時の避難所づくりを地区体育館で実施しました。簡易テントやベッド、トイレの組立と設置、救急救命法(AEDの使い方)の講習、芋煮の炊き出しなどを行いました。

野尻中 スクールコンサート



裏に続きます。

小林秀峰高校と鹿児島実業高校の新体操部による華麗な演技を鑑賞しました。競技会向けのプログラムに加え、物語を題材にしたものや技の紹介、中学生の体験など盛り沢山。生徒たちは、全国トップクラスの実力を目の当たりにして、演技が終わる度に大きな拍手を送っていました。

小林小まつり



地域の方を講師に迎えての体験活動です。読み聞かせ・茶道・工作・昔の遊び・三味線・チーズ作りなど、子どもたちは約15種類の活動に分かれて参加。学びと交流の貴重なひとときでした。

細野小 そばの収穫

4年生



9月上旬に種をまいたそばの収穫です。細野地区営農組合とJAこばやしの皆さんに教えてもらい、刈り取りと「めぐり棒」でたたいて実を落とす体験をしました。今年は台風の被害もなく豊作でした。

昭和48年創業。アクリル・樹脂・プラスチックの特注加工を専門にしています。

細野中 (株)ミヤザキ工場見学



山之上社長(細野中出身)のお話を聞き、工場を見学。社長は、中学高校時代のことや会社を興すまでの道のり、経営者としての心構え、中学生へのアドバイスなどを熱く語ってくださいました。見学したどの部署でも、社員の皆さんが丁寧に挨拶してくださり、工場内は、トイレを含め、隅々までとてもきれいでした。毎日、社員が交替で掃除をしているそうです。

みしのたくかにと おはなし会



市内で読み聞かせの活動を続けているグループの皆さんが開いたおはなし会です。山形や千葉など、県外からも8名の読み手が参加して市立図書館で行われました。

午前中は読み聞かせとおもちゃづくり、午後は大人も対象の読み聞かせ。本を読まない「語り」や、本と小さな人形を使った物語もあり、子どもも大人もプログラムの一つひとつに引き込まれていました。小中学校で定期的に読み聞かせをしている方々にとっても、技術を磨く良い機会になりました。(おはなし会のタイトルの意味は? 右から…)

こんにちは! 小林市キャリア教育支援センターです



キャリア教育トークセッション 第9弾



【井料瑠美さん】小林市出身。小林高校卒業後、ミュージカルの道へ。劇団四季で数多くの主役を演じてきました。演技力、歌唱力に定評があり、ストレートプレイ(舞台演劇)からエンターテインメントまで幅広く活躍されています。

音楽好きの家庭に育った井料さんが、劇団四季のトップスターになるまでの道のりや舞台芸術への思いをお話してくださいました。講演の中から心に残った言葉をまとめてみました。

◆ 普通に話し、歩いていても、歌って踊っているように見える「変な子」で、他の人と違うことでいじめられることもありました。◆ 17歳の時、劇団四季のミュージカルを初めて観て、「ここが私の場所」だと思いました。◆ 両親を始め、周りの大人全てから、「なれるわけない」と反対されましたが、今は、反対した人全てが私の恩人だと思っています。◆ 音大出身やバレエ経験者ばかりのオーディション(1500人中、合格者は11人)を経て養成所に入りました。◆ 自主練も含め、1日13時間の練習も、「やりたいことがやれるという喜びで、とても幸せでした。厳しいことを言われた時、怒るよりも、言ってもらってよかったと思います。◆ 舞台芸術や演劇を観たことがない方々にこの世界を知っていただきたい。舞台芸術は本当に尊い仕事、皆さまの夢を叶える場所でもありますので、私のイメージを保ちつつ、夢の裏側をお伝えできたらと願っています。◆ 「出る杭は打たれる」と言いますが、海外の高名な演出家から「あなたはあなたのままでいい」と言われたことが忘れられません。◆ 一人ひとり、「夢の種子」をもって、生まれてきます。自分の本音に正直に生きることにおおらかな環境が広がっていきますよう願っています。物語は困難がないと盛り上がりません。困難な時こそ「夢の種子」をずっともち続けていたいと思っています。

てなむ

学校向け

地域学校協働活動と
キャリア教育の広報紙



- ◆ こばやしスクールサポートボランティアセンター 【小林市社会教育課(中央公民館)】 TEL22-7912
- ◆ 小林市キャリア教育支援センター 【小林商工会議所(TENAMUビル)】 TEL23-4121

あけまして おめでとうございます



新しい年を迎え 皆様のご健康と
ご多幸を お祈り申し上げます



昨年12月の須木中(右)と紙屋中のしめ縄づくり
です。世代間交流の貴重な機会にもなっています。

三松小 冬のおはなし会

わたぐも絵本の会:保護者
による読み聞かせサークル



クリスマス前のおはなし会。昨年に引き続き実
施しました。20名ほどの保護者が午前中から準備
をして、昼休みに子どもたちを迎えました。
参加は自由ですが、体育館は子どもたちでい
っぱい。スクリーンを使った読み聞かせや紙芝居、
劇などの出し物の一つひとつに大きな拍手と笑い
声で応えていました。最後はクリスマスソングの
合唱で楽しいひとときを終えました。

西小林中 秀峰高校訪問(福祉体験)



1年生

福祉系高校の生徒が、中学生に介護の魅力を伝
える「介護の魅力発信事業」(県長寿介護課)

福祉科の2年生2人による学科の紹介と福祉や
介護についての説明の後、1年生20名が福祉機器と
ボッチャのグループに分かれ、体験しました。
機器は、上に座るとスムーズに移動できるスラ
イドボード・移乗サポートロボット「Hug(ハグ)」・腰
への負担を減らすマッスルスーツを体験。ボッ
チャでは、障がいのある方と一緒にチームを組み、
試合をしました。

三松中 学校保健委員会(講演会)



中学生に大切
な生活習慣

【渡辺なおみさん】あすリーと道場BUSHITSU(宮崎市)
チーフコーチ・理学療法士・日本スポーツ協会アスレティッ
クトレーナー

生徒と保護者が対象の講演会です。生活習慣の
整え方について、講師の渡辺さんが栄養や筋肉、
睡眠、脳の働きなどの側面から分かりやすくお話
していただきました。

永久津保育園・小・中 そば打ち

年長組・小6
中1の活動



食育の一環として、JAこ
ばやし北支所の協力で、毎
年行っています。そば粉は
9月に種まきをし、11月に
収穫したもの。

JA職員の説明の後、地域
のそば打ち名人、倉菌さん
の指導で、小中合同、園児のグループで活動しま
した。手でこね、めん棒でのばす作業は難しかった
ですが、多くの大人に教えてもらいながら完成。
JA女性部の方が作ったそばつゆでおいしくいた
だきました。心も体も温まったひとときでした。

裏に続きます。

細野小 いのちの授業

この日は参観日。保護者もお話を聞きました。

4年生



外山さん：動物愛護センター

4年生は清武町の動物愛護センターを一度見学しています。今回は、動物の絵や写真を見て動物の気持ちを想像し、自分たちができることをまとめました。その後、小林保健所の野町さん(獣医師)から、「肉になるまで・生きられるとしたら」というお話があり、動物の命をいただくことの意味や食の大切さについて改めて考えました。

細野中 折れない心を育てるいのちの授業



全学級で実施しました。講師はエンドオブライフ・ケア協会の皆さん。テーマは「苦しみから支えに気づく」「苦しむ人を前にしてわたしにできること」「自分を認め大切にする」

「なぜ人は頭では大切だとわかっていても、人やものを傷つけてしまうのでしょうか？」などの問いかけに対し、生徒たちは、自分自身を振り返りながら考えていました。

幸ヶ丘小 花いっぱい活動

卒業式と入学式を彩る花を植えました。



学校用務員の宇治野さん・坂元さんに土づくりから教えてもらい、一人二鉢、ビオラとペチュニアを植え付けました。鉢は日当たりの良い体育館横に並べ、早速水やりをして、お世話開始！

子どもたちは、毎日、花の観察と世話を続けています。

南小 租税教室

6年生



2クラスで実施

講師は吉村さん(小林法人会)

最初に法人会の説明があり、吉村さんが所属する南校区まちづくり協議会が行った、6年生の熱気球搭乗体験の動画が紹介されました。

内容は、税金って？ どうして納めなければいけないのか？ 小学校ではどれくらいの税金が使われている？ など。税金のない世界を描いたDVDの視聴や、小学生1人に6年間で576万円の税金が使われているなどの具体的な話もあり、6年生は真剣に耳を傾け、積極的に発表していました。

こんにちは！ 小林市キャリア教育支援センターです



キャリア教育トークセッション 第10弾



【川野美紗子さん】小林市在住のキャリアコンサルタント/インターンシップコーディネーター。2012年に東京からUターン後、地元商店街の空き店舗活用事業や観光イベントの企画運営に携わり、2018年に旧小林市観光協会の歴代最年少・初の女性事務局長に就任。2022年協会解散を機に退職後、企業の採用面接やキャリア面談、女性活躍に関するコンサルティング、ブログ執筆などを中心に活躍されています。

演題は「大学のない街のキャリア教育」。地域でキャリアを築くことについてのお話です。

中学生から大学生の時期、「情報はネットでたくさん手に入るが、より現実感を伴うキャリア経験に出会う機会が少なく、この街で働き、キャリアを築くイメージをもちづらい」。企業にしても、「若者がそばにいるイメージを抱きにくい」。このような地方の特性に触れ、ご自身の仕事も紹介しつつ、就業体験の必要性や受け入れ体制の充実、自分で考え・自分で選び・自分で決める自律的意思決定の重要性についてお話していただきました。

その後、参加者は少人数のグループに分かれて、感想などを語り合いました。

※ **キャリア**：一般的には「個人の長期にわたる職業的経歴」のことです。仕事や就職、昇進に関するイメージがありますが、職業選択に関する活動や心構え、仕事への関わり方の過程でもあり、生涯向き合って育てていくものです。キャリアはその人の「生き方」とも言えます。

てなむ

学校向け

地域学校協働活動と
キャリア教育の広報紙



- ◆ こばやしスクールサポートボランティアセンター 【小林市社会教育課(中央公民館)】 TEL22-7912
- ◆ 小林市キャリア教育支援センター 【小林商工会議所(TENAMUビル)】 TEL23-4121



1月5日、「二十歳を祝うつどい」が小林市文化会館で開かれました。エントランスホールには小中学校時代のたくさんの写真。眺めながら、「取材で出会っていたかも」と、昔を振り返っていました。

小林小5年生6名による「お祝いの言葉」は内容が豊かで、とても心に残りました。一人ひとりの温かいメッセージを聞きながら、子どもたちと小林市の10年後を想像していました。

今年度もあと2か月。行事の度に時の速さを感じています。

合格の願いを込めてお守りを作りました。みなさんの合格を祈っています

東方中 お守り激励会



3年生

こすもす支援学校中学部の生徒たちが心を込めて作ったお守りの贈呈式。毎年、この時期に実施しています。

ブルーやピンクの色紙で作られたお守り

りを贈られた10人の3年生は、入試に向けての決意を新たにしていました。

【お礼の言葉】全員が志望校に合格できるよう頑張っていきます。ありがとうございました。



小林小・南小 合同スクールコンサート



専修大学熊本玉名高等学校[Ventures]



両小学校区のまちづくり協議会が主催したコンサート。4年生以上が鑑賞しました。

出演はVentures。マーチングバンド全国大会で何回も金賞に輝いている名門です。

吹奏楽とカラーガード隊による迫力満点のパフォーマンスに、子どもたちは身体でリズムを取りながら聴き入っていました。



東方小 トヨタの授業



5年生



宮崎トヨタによる出前授業です。前半は二酸化炭素排出の原因・地球の温暖化・燃料電池自動車・クルマの製造過程についてクイズに答えながら楽しく学びました。後半はコンピュータを用いたクルマの診断や自動駐車システム、電動の移動用小型車“C+walk”をグループに分かれて体験しました。子どもたちだけでなく先生方も、新型車の装備や性能に興味津々の体験活動でした。

西小林小 JICA の授業

6年生



戸高将(まさ)先生：「発展途上国の人々の役に立ちたい」という高校時代からの夢を実現するために、5年前、西小林小を1年早めて退職。ベトナムで1年間、日本語の指導をした後、コロナ禍の中断をはさんで、昨年からはパプアニューギニアのソゲリ小学校(公立)で算数を指導。現地の教師に指導技術も伝えています。

JICA(国際協力機構)：支援の一つが海外協力隊。様々な技術をもった日本人を発展途上国に2年間派遣して、その国や人々を支援します。

裏に続きます。

ソゲリ小学校(パプアニューギニア)



教室



チャイムの代わり
にたたきます。



戸高先生はベトナムとパプアニューギニアの生活や学校の様子をたくさんの写真と共に紹介してくださいました。日本とは異なる風景に接した6年生からは、

時折、笑いや驚きの声があがっていました。外国の文化や学校生活を学ぶことを通して、自分たちの生活を振り返る貴重な時間にもなりました。

【ソゲリ小学校】児童数約400人 ■ ないもの：体育館・プール・保健室・理科室・音楽室・職員室・給食・集団登校・帰りの会・係活動・委員会・クラブ活動、トイレは1か所、水道の蛇口は5つ、図書室はあることはあるけど…

須木小 小林警察署見学

3年生



6人の3年生が警察署を訪問しました。警察本部の仕組と警察の仕事について、お話とDVDで学んだ後、パトカーや白バイ、警察官の持ち物についての説明を聞きました。パトカーと白バイにも乗せてもらい、子どもたちは大喜び。終わりに、交通課長さんから交通安全についてのお話があり、反射板(キーホルダー)をいただきました。

三松小 三松保育園見学

5年生



こすもす科「わたしは保育士・わたしの夢」の授業です。57人の5年生がグループに分かれて園内を見て回りました。各クラスでは読み聞かせや粘土細工、ダンスなどの活動を行っており、子どもたちは、保育士さんたちの仕事を見ながら、自分の未来について考えているようでした。

こんにちは！ 小林市キャリア教育
支援センターです



キャリア教育トークセッション 第11弾



ゲストスピーカーは、本市の中屋敷史生教育長。「小林市のキャリア教育」について、市独自の教科「こすもす科」の解説を加えながらお話してくださいました。

主な内容をキーワードと共に紹介します。

【キャリア教育の捉え方】これまでのゲストスピーカーのお話にはいろいろな視点がありました。共通するのは「社会に出た時の自立」かなと思います。【コロナ禍】来年度の小学1年生は自然体験や社会体験が乏しいまま入学してきます。学校はデジタル化が進んでいますが、アナログ的な体験もバランスよく取り入れる必要があります。

【人口減少】将来、生産年齢人口が5割減少すると言われており、分野を超えた競合が当たり前の時代がやってきます。【グローバル化】異なる文化や宗教をもつ人たちと一緒に社会を支えていく時代が訪れます。

【人生100年時代】2007年に生まれた人が100歳まで生きる確率は50%。働く期間が長く、働くステージ(段階)も増えます。しかし、「自己研鑽をとくに行っていない」と答えた社会人が半数以上おり、「世界一ビジネスマンが学ばない国 ニッポン」と言われています。(インドやベトナムは3~4%)

【こすもす科創設の経緯】◇ 実態(小林市総合計画)と全国の傾向(中教審答申)を基に、市内の小中学校の実態を分析して、進むべき道を明らかにしました。(平成21年度開始) ◇ 小林ではキャリア教育を踏まえた学力向上を目指しています。「こうなりたい」と思えば、鉛筆やノートは出てきますね。【活動の紹介】細野中1・2年生のこすもす科の動画(夢を探そう・小林の魅力再発見)

【質問に答えて】小林の教育で大切にしていることは…
① 教えることから育てることへ(主体性) ② 集団指導から個別指導へ(多様性) ③ 短所から長所へ(有用性)

こすもす科のねらいや学習のポイントの説明は指導方法を見直すきっかけにもなりました。講演後は、グループで感想などを話しあいました。

【感想より】 ◆ 70歳を過ぎて「今更…」と思っていたが、100歳までのお話を聞き、「学んでいいんだ」と思った。

◆ 昔は当たり前だった様々な体験の機会が少なくなっ



おり、こすもす科は貴重な学びの場となっている。その重要性を改めて学校で確認すべき。

◆ 自然体験や社会体験を学校だけで実施するのは難しい。先生方も大変だと思うので、専門家や地域の人材を活用してほしい。

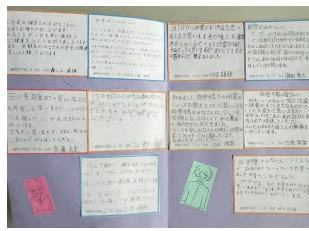
てなむ

学校向け

地域学校協働活動と
キャリア教育の広報紙



- ◆ こばやしスクールサポートボランティアセンター【小林市社会教育課(中央公民館)】 TEL22-7912
- ◆ 小林市キャリア教育支援センター【小林商工会議所(TENAMUビル)】 TEL23-4121



能登半島地震に際し、小林市の小中学生が行った「お小遣い募金」のニュースに接した方も多いいことでしょう。募金に加え、細野中生徒会では、能登町の4つの中学校にあてて、全校生徒のメッセージをまとめました。

「少しでも笑顔になっていただきたくて募金に協力しました」、「被害状況が明らかになる中で、言葉にならない思いがあふれてきます」、「また、活気のある石川県と皆様の笑顔 テレビで見られることを願っています。元の生活に早く戻れますように」など、励ましや寄り添う言葉がたくさん。読んでいるうちに子どもたちの優しさが伝わってきました。メッセージは災害派遣(2月1日出発、第3班)の市職員が届けました。

幸ヶ丘小 防災教室

児童・保護者・地域の皆さんが参加しました。



以前から計画していた活動が、能登半島地震後、防災への関心が高まっている中で行われました。主な内容を写真の番号順に紹介します。

- ① 講話(赤松さん:小林市役所危機管理課)
赤松さんは防災専門員、元自衛官です。お話は…
◆ 能登半島地震と小林市の支援活動 ◆ 小林市の過去の災害 ◆ 防災の取組(地域で・個人で)
- ② 災害袋の紹介・避難所用のダンボールベッドとテントの設営(小林市災害ボランティアコーディネートセンター)
ベッドは子どもと大人のグループでそれぞれ組立て、丈夫な構造に参加者全員が感心していました。

東方小 グローブ贈呈式

手紙とメッセージカードも紹介されました。



大谷翔平選手からのグローブが市内の小学校に届き、1月中に各学校で披露されました。

東方小では風邪が流行っていたため、6年生の教室からオンラインで実施。野球チームに所属する6年生2人が受け取りました。

根井校長先生の「みんなで仲良く使って夢をふくらませてほしいと思います」というお話の後、代表の児童2人がお礼を述べました。

最後に、グローブを使う際のルールの説明があり、子どもたちは真剣に聞いていました。現在、日替わりで学年ごとに使っています。

野尻小 薬物乱用防止教室

5・6年生



都城警察署少年補導職員と宮崎県警察スクールサポーターの皆さん

学校保健委員会で実施。最初に活動の報告がありました。

- ◆ 夏・冬休みの「弁当の日」は参加者が増え、家庭や児童の意識が高まりました。
- ◆ 朝食の大切さを理解する話し合いをもち、「朝食にあとひと品」の取組を行いました。

その後は薬物乱用防止教室。内容は、薬物とは・薬物の種類・薬物の怖さ(心身に与える影響)・タバコとお酒について・自分を守るために大切なこと・誘われた時の断り方など。○×クイズに答えたり、「断り方」を話し合い発表したりして学びました。

「保護者の皆さんにぜひ聞いてほしい内容でした」と講師の長崎さん(少年補導職員)。スマホやネットの安全教室など、親子で参加する取組が各学校で行われています。

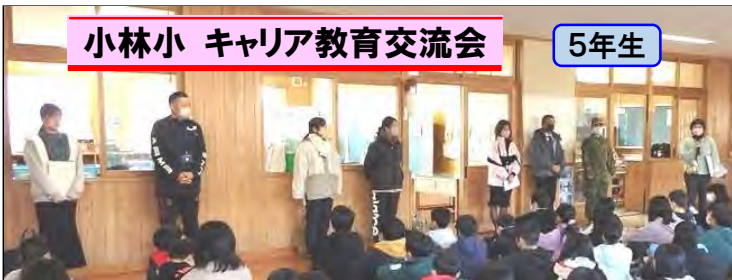
【児童代表お礼の言葉】薬物で捕まる少年が増えていることにびっくりしました。誘われてもしっかり断りたいです。



裏に続きます。

小林小 キャリア教育交流会

5年生



5年生はこすもす科で保育士の仕事について学んでいます。その内容をより深めるために保育士と幼稚園教諭の皆さんから話を聞きました。

また、親や学校事務など、身近な人の仕事をよく知らない児童もいるということで、今回は、保護者にも依頼して、自衛隊員・市役所職員、学校事務職員の皆さんにも来ていただきました。

希望するブースを回りながら熱心に話を聞き、質問している子どもたちの様子を見て、仕事に関心をもつ良いきっかけになっていると感じました。



野尻中 立志式・記念講演

2年生



25人の2年生が、漢字一文字と共に、夢や目標、努力することを力強く発表しました。その後は、誓いの言葉。「勉学に励みます」「感謝を忘れず責任を果たします」「力を合わせて…」など、これからの生き方を、保護者の前で堂々と述べました。

記念講演は和田花織さん。横浜市出身で1年半前に宮崎に移住。(株)リクルートに勤務し、主にオンラインで仕事をしています。「主体的に生きることの大切さ」の演題で、宮崎に来た理由。今の仕事。中学と高校・大学時代のギャップ。中学生へ伝えたいことについてお話していただきました。

三松小 江戸太神楽

3・4年生



演者の仙若さんは野尻町出身。今回、市PTA大会への出演を機に、三松小を始め、紙屋小、南小、須木小、細野小で曲芸を披露していただきました。

ジャグリングや紙風船回しに挑戦するコーナーもあり、会場は笑いや歓声で一杯。子どもたちは、江戸時代から伝わる伝統芸能の魅力を体全体で感じ取っていました。

こんにちは！ 小林市キャリア教育支援センターです



キャリア教育トークセッション 第12弾



石川琢磨さん：(株)アディッシュプラス代表取締役。宮崎frogs代表理事

10年以上前に沖縄県で始まった人材育成プログラムの宮崎版「宮崎frogs」を4月に立ち上げる予定。さまざまな個人と企業の支援で、6か月間で、研修・事業計画(やりたいこと)の作成・プレゼンテーションを行います。

講演のテーマは「キャリア教育×人材育成」。学生時代や現在の仕事のこと、人材育成プログラムについてお話していただきました。その後、参加者はフリートークで交流を深めました。

- 【主な内容】 ◆ キャリア教育とは ◆ 未来を生き抜く非認知能力を育てる ◆ これから求められる人材育成 ◆ 大人ができること ◆ 地域の継続的な発展のために ◆アントレプレナーシップをもった若手人材の育成など

沖縄県での人材育成プログラムに参加した高校生や大学生たちが、その後、さまざまな分野で活躍している様子も紹介され、大変興味深いものでした。また、「地域で人材を育成しても、自分の可能性にかけて都会に出る人は多い。『地域を見限って出る』よりも『地域に感謝して出る』人材を育てたい」という言葉が心に残りました。

石川さんの話を聞いて「プログラムに参加します」と宣言した高校1年の男子生徒もいて、大きな拍手を浴びていました。

キャリア教育トークセッションは、月に1度、TENAMUBIL2階の交流スペースで開催。午後7:00～8:30



地域学校協働活動と キャリア教育の広報紙

てなむ

学校向け

- ◆ しばやしスクールサポートボランティアセンター【小林市社会教育課(中央公民館)】 Tel.22-7912
- ◆ 小林市キャリア教育支援センター【小林商工会議所(TENAMUビル)】 Tel.23-4121

「協働の学校づくり」推進協議会

年2回開催



9つの中学校区の代表と、中屋敷教育長をはじめ学校教育課と社会教育課の職員が出席しました。教育長のあいさつに続いて、各中学校校区から、まちづくり協議会と連携した活動や、小中学生が参加した地域の行事、学習支援や伝統芸能の継承など、多くの事例が報告されました。その後、異なる校区とグループを作り、今後に向けての協議を行いました。



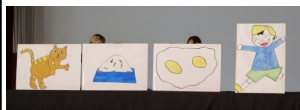
まとめの中で、宮崎大学の遠藤准教授(左)から、「社会の一員を育てる学校は、社会と一緒になければなりません」とか「子どもが学校だけでなく社会の中で活躍できる場を設けてください」などの助言をいただきました。

小林小 卒業生に向けてのおはなし会

6年生



ペープサート「イギリスの紳士」



毎年行っている市立図書館と、読み聞かせグループ「くすの木文庫」の皆さんによるおはなし会。ブックトーク(本の紹介)に始まり、読み聞かせや大型パネルの紙芝居、ペープサート(紙人形劇)など、20名近くのスタッフが交替で演じてくださいました。教科書に載った文章のタイトルを当てるクイズもあり、子どもたちは積極的に手を挙げて答えていました。

物語の一つひとつに聞き入ったり、大笑いしたり…。卒業前の最高のプレゼントになりました。

「くすの木文庫」は、学校での読み聞かせなど、これまでの活動が認められ、2月に県教育長表彰を受けました。

栗須小 夢発表会

5年生



20名の夢と学習成果の発表会です。入学したばかりの頃と5年生の写真の紹介。「なりたい自分」と、これから努力することの発表。国語で学習した竹取物語や徒然草、漢詩など、8つの古典の朗読と群読。家族への感謝の言葉。器楽合奏「ルパン三世のテーマ」と、盛りだくさんの内容でした。保護者や来賓の皆さんからは、発表が終わるたびに大きな拍手が送られていました。

細野中 立志式

2年生



細野まちづくり協議会など、地域の皆さんと保護者・1年生が出席しました。2年生は座右の銘とともに夢や目標を発表。これまでの自分を振り返り、未来の自分について語りました。その後、記念品授与(青少年育成市民会議細野支部より)、立志の誓い、立志の歌と続き、厳粛な雰囲気の中、大きな発表の声と調和のとれた合唱の歌声が、体育館に響いていました。

【誓いの言葉】◆ 何事にも笑顔で真摯に務めます。

- ◆ いつまでも努力を怠らず挑戦します。
- ◆ これからも共に歩む仲間を大切にします。
- ◆ 今ある日常に感謝し、胸を張って生きていきます。

三松中 立志式・記念講演

2年生



和田花織さん

裏に続きます

54名の2年生が、座右の銘を手に、夢や目標を力強く発表しました。その後は、代表生徒による誓いの言葉。会場では、保護者と1年生が、一人ひとりの言葉に、熱心に耳を傾けていました。

記念講演は和田花織さん。横浜市出身で1年半前に宮崎に移住。(株)リクルートに勤務し、主にオンラインで仕事をしています。「主体的に生きることの大切さ」の演題で、宮崎に来た理由、今の仕事、中学・高校・大学時代のギャップ、中学生へ伝えたいことについてお話してくださいました。

西小林中「性暴力被害者支援」講演会 2年生



日高親弘さん:元警察官。定年退職後。みやざき被害者支援センターで「さぼーとねっと宮崎」の仕事もされています。

主な内容は「さぼーとねっと宮崎」の説明・(デジタル)性暴力とは・性暴力の事例と加害者の手口・位置情報共有アプリの危険性・「さぼーとねっと宮崎」の具体的な支援などです。

「性暴力は遠い世界の話ではありません。SNSで他人になりすまし、徐々に親しくなって…という事件もありました」など、経験を基にいくつかの事例を紹介してくださいました。また、毅然と断る勇気や、一人で悩まずに相談することの大切さについてのお話もありました。

【さぼーとねっと宮崎】性暴力被害に遭われた方やその家族の方が、安心して相談でき、必要な支援を受けることができるよう、宮崎県が開設した相談窓口です。

永久津小 パプアニューギニアとの交流活動



6年生が、JICA(国際協力機構)の戸高先生(13号で紹介)が勤めるパプアニューギニアの小学校とオンラインで交流しました。

子どもたちは外国の様子に興味津々。永久津小学校を紹介し、踊りも披露しました。貴重な体験に感激して涙ぐむ子もいて、とても有意義な時間になりました。

他学年の児童も交代で見学。画面に映る珍しい風景を熱心に見つめていました。

野尻小 ボランティア感謝集会



ボランティア団体の代表4人の皆さんをお迎えして、感謝の気持ちを伝えました。児童代表のお礼の言葉、感謝状と児童が育てた花のプレゼントの後、お一人ずつ挨拶をしていただきました。

【棒踊り保存会】6月から練習が始まります。また一緒にがんばりましょう。【読み聞かせ・学習支援】今年も素敵な本をみなさんに届けたいと思います。

【学習支援】みなさんの元気な姿に触れて、私も元気をもらっています。【見守り・児童クラブ】「おはようございます」「がんばってください」の挨拶が、とてもうれしいです。

コロナ禍以降は代表の方だけが出席。4月にはボランティア集会(対面式)を予定しています。

こんにちは! 小林市キャリア教育支援センターです



紙屋小5・6年生と紙屋中生、保護者を対象に「キャリア教育講演会」を開催しました。講師は大谷貴子さん(全国骨髄バンク推進連絡協議会顧問)。テーマは「白血病から学んだこと!〜生きていることの喜びを伝えたい」。内容を簡単に紹介します。

◆ 30数年前、大学院2年。就職が決まった3日後に、「白血病で余命1月」の宣告 ◆ たくさんの本を読み、骨髄移植を知った。 ◆ 姉とは骨髄の型が不一致。卒業アルバムを手に電話をしたが、中学時代の友人にはできなかった。3年生の頃、いじめられている女子生徒を助けなかった自分が「助けて」とは言えなかった。会えるなら土下座して謝りたい。 ◆ アメリカには骨髄バンクがあると聞き、日本にもできるように署名を集めた。 ◆ 自分は間に合わないと思ったが、年間6千人も発症している誰かを助けられるのではという思いだった。新聞やテレビが取り上げてくれ、国も動いた。 ◆ 幸い、母親と型が一致し、意識がない中で手術を受けた。 ◆ いろいろな場面でたくさんの人に助けられ、今、私は生きている。 ◆ 皆さんには、生活の中で助けてもらっている家族や友だちに「ありがとう」を言ってほしい。(心の中でもかまわない)

【お礼の言葉】お話を聞いて、自分があるのは家族や友だちのおかげだと思いました。社会貢献ができるようになりたいと思います。

